

別紙 2

異文化理解促進プログラム協力講師 自己紹介

※公開可能な内容のみ記載ください。



名前：瀬古 素子

職業：大学教員

所属：叡啓大学

専門分野：国際協力、国際保健政策、ジェンダー

出身国や外国で過ごした経験について教えてください：

高校で1年・大学院で1年9か月、アメリカに留学しました。その後、国連職員や JICA 専門家として、20年に渡ってアジアやアフリカなど9か国（アメリカ・カンボジア・インド・タイ・ボツワナ・ザンビア・スイス・パキスタン・ガーナ）で働き暮らしました。様々な国の政府とともに政策を作ったり事業を行い、現地の人々の健康と人権を守る仕事に従事。どの国にも、また所属した国際機関にも、特別な思い出とエピソードがたっぷりあります。

広島の子供・生徒たちにどんなことを学んでほしいですか：

- ・世界の様々な国で目にする、生活や価値観の多様性とその豊かさ。
- ・世界はとても広く、私たちに想像もできないことが沢山あること。日本が世界の中心でもスタンダードな場所でもないこと。途上国と呼ばれる国々の子どもたちが不幸とは限らないこと。英語や他の外国語が話せることによって自分の行動範囲や友人の居場所が世界中に広がること、など。

自己紹介を自由に記載してください（写真などもお使いください）：

国際協力という分野では、特定の国に協力を続ける人と、様々な国において自分の専門領域（私の場合は国際保健やジェンダー）での協力を行う人との二手に分かれます。後者である私は、数年ごとに働く国を変え、新しい文化や人々や解決すべき課題に触れて、とても刺激的な日々を送ってきました。日本人として、世界のあちこちに小さな貢献をしてきた自負があります。これからの時代、日本以外の国で仕事をしたり生活する人も、また日本に居ながらにして様々な国の人と働いたりする人が増えてくると思います。そのような多文化との出会いを楽しめるような若い人たちのきっかけになれば幸いです。これまでの仕事については、具体的に紹介いただいた記事等（[JICA 専門家業務@パキスタン](#)、[国際機関業務@スイス](#)）があるので、詳細はご参照いただければ幸いです。